

日月神示 祓え祝詞

(108)

掛けまくも畏^{かしこ}き イザナギの大神、筑紫^{つくし}の日向^{ひむか}の、橘^{たちばな}の小戸^{おと}の阿波岐原^{あはぎはら}に、
禊^{みそ}ぎ祓^{はら}へ給^{たま}ふ時^{とき}に生^なりませる、
ツキタツフナドの神^{かみ}、ミチノナカチハの神、トキオカシの神、
ワツラヒノウシの神、チマタの神、アキクヒノウシの神、オキサ
カルの神、オキツナギサビコの神、
オキツカヒヘラの神、ヘサカルの神、
ヘツナギサヒコの神、ヘツカヒヘラの神、ヤソマガツヒの神、
オホマガツヒの神、カムナホヒの神、オホナホヒの神、イヅノメ
の神、
ソコツワタツミの神、ソコツツノオの神、ナカツワタツミの神、
ナカツツノオの命^{みこと}、ウワツワタツミの神、ウワツツノオの命、
祓^{はら}戸^{えと}四柱^{よはしら}の神たちともに、諸^{もろ}々の曲事^{まがこと}、罪穢^{つみけが}れを祓^{はら}へ給^{たま}へ、清^{きよ}
め給^{たま}へと申^{まお}すことを、聞^きこしめせと、
畏^{かしこ}み畏^{かしこ}みも申^{まお}す

かけまくもかしこき、いざなぎのおほかみ、つくしのひむかの、
たちばなのおとのあはぎはらに、みそぎはらえたまえふときにな
りませる、

つきたつふなどのかみ、みちのなちはのかみ、ときおかしのか
み、

わつらひのうしのかみ、ちまたのかみ、あきくひのうしのかみ、
おきさかるのかみ、おきつなぎさびこのかみ、おきつかひへらの
かみ、

へさかるのかみ、へつなぎさひこのかみ、へつかひへらのかみ、
やそまがつひのかみ、おほまがつひのかみ、かむなほひのかみ、
おほなほひのかみ、いづのめのかみ、そこつわたつみのかみ、
そこつつのおのかみ、なかつわたつみのかみ、なかつつのおのみ
こと、

うわつわたつみのかみ、うわつつのおのみこと、

はらえとよはしらのかみたちともに、もろもろのまがこと、つみ
けがれをはらえたまえ、きよめたまえとまおすことを、きこしめ
せと、かしこみかしこみもまおす

おおひつきくにのおおかみ、まもりたまえ、さきわえたまえ